

24 (月)	うば 奪 <sup>かいふく</sup> われたことを回復 <sup>み は にん</sup> しなさい - 見張り人RT300%
<b>Ⅱコリ 10 章 4~6 節</b> わたし さまざま ぎろん かみ ちしき さか た 私 たちは様々な議論と、神の知識に逆 <sup>さか</sup> らって立つあらゆる 高 <sup>たか</sup> ぶりを打ち倒 <sup>たお</sup> し、また、すべてのほかりごとを取り押 <sup>お</sup> さえて、キリストに 服 <sup>ふくじゅう</sup> 従 <sup>しゅつ</sup> させます。(5)	
Remnant は見 <sup>み</sup> 張 <sup>は</sup> りをする者 <sup>もの</sup> です。それゆえ、世界 <sup>せかい</sup> を生 <sup>い</sup> かすやぐら 100%、旅程 <sup>りょてい</sup> 100%、 道 <sup>みち</sup> しるべ 100%を建 <sup>た</sup> てる答 <sup>こた</sup> えを受 <sup>う</sup> けましょう。	
1 目 <sup>め</sup> 、わざわい時代 <sup>じだい</sup> に祈 <sup>いの</sup> りの奥 <sup>おく</sup> 義 <sup>ぎ</sup> を持 <sup>も</sup> っている Remnant 一人 <sup>ひとり</sup> が時代 <sup>じだい</sup> のわざわい を止 <sup>と</sup> めました。ヨセフを見て王 <sup>み</sup> が「神 <sup>かみ</sup> の霊 <sup>れい</sup> が宿 <sup>やど</sup> っているこのような人 <sup>ひと</sup> が、ほかに 見 <sup>み</sup> つかるだろうか」とい <sup>い</sup> いました。サムエルの祈 <sup>いの</sup> りはミツパ運動 <sup>うんどう</sup> を起 <sup>お</sup> こしました。 エリシャ、モーセ、ダビデのような Remnant が 300%の答 <sup>こた</sup> えによってわざわいを 止 <sup>と</sup> めました。2 目 <sup>め</sup> 、ペテロチームは神 <sup>かみ</sup> 様が <sup>さま</sup> くださったやぐら、旅程 <sup>りょてい</sup> 、道 <sup>みち</sup> しるべ をよく味 <sup>あじ</sup> わうことができ <sup>じん</sup> ませんでした。ペテロを通してローマ人 <sup>じん</sup> コルネリウスが 福 <sup>ふくいん</sup> 音 <sup>う</sup> を受け <sup>あ</sup> ました。そのとき、異邦 <sup>いほう</sup> 人と食 <sup>しょく</sup> 事 <sup>じ</sup> したことを問 <sup>もん</sup> 題 <sup>だい</sup> だとい <sup>い</sup> いました。パ ウロの伝 <sup>でん</sup> 道 <sup>どう</sup> で教 <sup>きょう</sup> 会 <sup>かい</sup> が <sup>な</sup> でき <sup>な</sup> ましたが、異邦 <sup>いほう</sup> 人もユダヤ人 <sup>じん</sup> の律 <sup>りつ</sup> 法 <sup>ぽう</sup> を守 <sup>まも</sup> らなければなら ないとい <sup>い</sup> いました。その中にサタン <sup>さたん</sup> の要 <sup>よう</sup> 塞 <sup>さい</sup> があ <sup>つ</sup> て、サタンに仕 <sup>つか</sup> えるしか <sup>な</sup> か ったのです。3 目 <sup>め</sup> 、パウロチームがこ <sup>こ</sup> の答 <sup>こた</sup> えを受け <sup>う</sup> けました。パウロはティラノ で3 か月 <sup>げつ</sup> 間 <sup>かん</sup> 、大 <sup>だい</sup> 胆 <sup>たん</sup> に神 <sup>かみ</sup> の国 <sup>くに</sup> について説 <sup>せ</sup> 明 <sup>めい</sup> しまし <sup>た</sup> 。現 <sup>げん</sup> 場 <sup>ば</sup> で聖 <sup>せい</sup> 霊 <sup>れい</sup> の導 <sup>みちび</sup> きを受 <sup>う</sup> けて、 行 <sup>い</sup> く所 <sup>ところ</sup> ごと <sup>い</sup> に癒 <sup>い</sup> やし <sup>はたら</sup> の働 <sup>お</sup> きが起 <sup>お</sup> こり <sup>かいどう</sup> しまし <sup>た</sup> 。そして、会 <sup>かい</sup> 堂 <sup>どう</sup> と講 <sup>こう</sup> 堂 <sup>どう</sup> 、広 <sup>ひろ</sup> 場 <sup>ば</sup> の道 <sup>みち</sup> し るべも建 <sup>た</sup> てて行 <sup>い</sup> き <sup>い</sup> ました。	
パウロのように 300%見 <sup>み</sup> 張 <sup>は</sup> りをする Remnant の答 <sup>こた</sup> えを受 <sup>う</sup> けるように祈 <sup>いの</sup> りましよう。	

かみさま わたし げんば み は  
神様、私に現場を見張る 300%の答<sup>こた</sup>えを与<sup>あた</sup>えてください。生きておられるイエ  
ス・キリストの御<sup>み</sup>名<sup>な</sup>によってお祈<sup>いの</sup>りします。アーメン

25 (火)	うば 奪 <sup>かいふく</sup> われたことを回復 <sup>しゅつ</sup> しなさい- 出エジプト(Exit) 300%
<b>Ⅱコリ 10:4-6</b> また、あなたがたの従 <sup>じゅうじゅん</sup> 順 <sup>かんぜん</sup> が完全 <sup>かんぜん</sup> になったとき、あらゆる 不 <sup>ふじゅうじゅん</sup> 従 <sup>じゅん</sup> 順 <sup>じゅん</sup> を罰 <sup>ばつ</sup> する用意 <sup>ようい</sup> ができています。(6)	
Remnant は、暗 <sup>くら</sup> 闇 <sup>やみ</sup> とサタンからキリストによって解 <sup>かい</sup> 放 <sup>ほう</sup> される 出 <sup>しゅつ</sup> エジプトをした 者 <sup>もの</sup> です。そして、聖 <sup>せい</sup> 書 <sup>しょ</sup> の Remnant のように 出 <sup>しゅつ</sup> エジプトさせる現 <sup>げん</sup> 場 <sup>ば</sup> があります。	
1 目 <sup>め</sup> 、教 <sup>きょう</sup> 会 <sup>かい</sup> を解 <sup>かい</sup> 放 <sup>ほう</sup> させましよう。イスラエル民 <sup>みん</sup> 族 <sup>ぞく</sup> はエジプトから出 <sup>で</sup> てきたの ですが、暗 <sup>くら</sup> 闇 <sup>やみ</sup> からは解 <sup>かい</sup> 放 <sup>ほう</sup> されませんでした。イエス様 <sup>さま</sup> はパ <sup>ま</sup> リサイ人 <sup>じん</sup> に「父 <sup>ちち</sup> である 悪 <sup>あく</sup> 魔 <sup>ま</sup> から出 <sup>で</sup> た者 <sup>もの</sup> 」だと言 <sup>い</sup> われました。パウロは彼 <sup>かれ</sup> らの中にサタン <sup>さたん</sup> の要 <sup>よう</sup> 塞 <sup>さい</sup> があると 言 <sup>い</sup> いました。2 目 <sup>め</sup> 、237-5千種 <sup>せんしゅ</sup> 族 <sup>ぞく</sup> に福 <sup>ふくいん</sup> 音 <sup>う</sup> を説 <sup>せつ</sup> 明 <sup>めい</sup> して、すべての縛 <sup>しば</sup> られたことか ら解 <sup>かい</sup> 放 <sup>ほう</sup> させましよう。サタンに関 <sup>かん</sup> わっているすべての文 <sup>ぶん</sup> 化 <sup>か</sup> を血 <sup>ち</sup> のいけにえによっ て(創 <sup>そう</sup> 3:15、出 <sup>しゅつ</sup> 3:18)た <sup>こ</sup> たき壊 <sup>こわ</sup> すのです。バビロンに伝 <sup>でん</sup> えられたインマヌエルの 祝 <sup>しゅく</sup> 福 <sup>ふく</sup> と(イザ7:14)ペテロが告 <sup>こく</sup> 白 <sup>はく</sup> したキリストを伝 <sup>でん</sup> えるのです。復 <sup>ふ</sup> 活 <sup>かつ</sup> して天 <sup>てん</sup> と地 <sup>ち</sup> のすべての権 <sup>けん</sup> 威 <sup>い</sup> を持 <sup>も</sup> っておられるキリスト、悪 <sup>あく</sup> 霊 <sup>れい</sup> もぶるぶる震 <sup>ふる</sup> える、その御 <sup>み</sup> 名 <sup>な</sup> に ついて教 <sup>おし</sup> えてあげましよう。また、聖 <sup>せい</sup> 霊 <sup>れい</sup> に満 <sup>み</sup> たされれば力 <sup>ちから</sup> を受 <sup>う</sup> けて地 <sup>ち</sup> の果 <sup>は</sup> てま で証 <sup>しょう</sup> 人 <sup>にん</sup> になるという契 <sup>けい</sup> 約 <sup>やく</sup> も伝 <sup>でん</sup> えるのです。3 目 <sup>め</sup> 、個 <sup>こ</sup> 人 <sup>じん</sup> を解 <sup>かい</sup> 放 <sup>ほう</sup> させる答 <sup>こた</sup> えを 与 <sup>あた</sup> えて助 <sup>たす</sup> けてあげましよう。ペテロが足 <sup>あし</sup> の不 <sup>ふ</sup> 自 <sup>じ</sup> 由 <sup>ゆう</sup> な人 <sup>ひと</sup> をイエス・キリストの御 <sup>み</sup> 名 <sup>な</sup> に よって立 <sup>た</sup> て起 <sup>お</sup> こしました。パウロも現 <sup>げん</sup> 場 <sup>ば</sup> で暗 <sup>くら</sup> 闇 <sup>やみ</sup> とサタンに捕 <sup>とら</sup> えられた者 <sup>もの</sup> を生 <sup>い</sup> かし ました。	
暗 <sup>くら</sup> 闇 <sup>やみ</sup> とサタンから解 <sup>かい</sup> 放 <sup>ほう</sup> されて、解 <sup>かい</sup> 放 <sup>ほう</sup> させる本 <sup>ほん</sup> 物 <sup>もの</sup> の 出 <sup>しゅつ</sup> エジプトの答 <sup>こた</sup> えを受 <sup>う</sup> けるよ うに祈 <sup>いの</sup> りましよう。	

かみさま わたし げんば ひとひと くらやみ ほんどう かいほう  
神様、私 がいる現場の人々をサタンと暗闇から本当に解放させるキリストを伝  
える Remnant になりますように。生きておられるイエス・キリストの御<sup>み</sup>名<sup>な</sup>によ  
ってお祈<sup>いの</sup>りします。アーメン

創41章38節 そこで、ファラオは家臣たちに言った。「神の霊が宿っているこのような人が、ほかに見つかるだろうか。」

多くの人は、むだな話、間違った話をよくします。Remnantは、人の話にだまされしないで、神様がくださった私に対する100%、現場に対する100%、未来に対する100%を準備する300%の中に入りましょう。そのために、どのようにすれば良いのでしょうか。

1つ目、上から与えられる力を持つ24の味わいの中にいましょう。朝には安らかに呼吸して、祈りを始めるのです。神様がくださったすべての現場のために祈り、答えを見つければ良いのです。昼には、すべての現場とすべてのできごとの中で答えを見つかけましょう。夜には深い祈りで、すべての問題、葛藤、危機の中に、みことばによって正確な答えを見つかけましょう。2つ目、御座の力を待つ25を待つ中にいましょう。7やぐら、7旅程、7道しるべを味わう祈りを一日に一度集中すれば、御座の祝福を味わうようになります。3つ目、絶対的なことをする永遠の挑戦の答えを味わいましょう。祈りの中で神様が私にくださったCVDIPを見て、見張り人になりましょう。続いて祈っていれば、永遠という作品が出てきます。

神様は Remnant を通して奪われたことを回復することを願っておられます。Remnant は霊的サミットの300%を準備して、今日に勝利しましょう。

神様、神様を離れてわざわざを受けているこの地に私を霊的サミットとして呼んでくださったことを感謝します。私、教会、現場を生かす300%を準備するレムナントになりますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン

Ⅱコリ10章4-6節 私たちの戦いの武器は肉のものではなく、神のために要塞を打ち倒す力があるものです。(4)

Remnantは、私の職業に300%を作りましょう。学業300%を作るためには、祈り300%になる必要があります。私に対する100%(7やぐら)、現場に対する100%(7旅程)、未来に対する100%(7道しるべ)を分かれば、祈りは簡単になります。それなら、Remnantはどのように300%を準備すれば良いのでしょうか。

1つ目、7やぐら、7旅程、7道しるべを祈れば、タラント100%の答えを受けようになります。力になる本を読んで、必ず聖書で答えを見つかけましょう。偉人を勉強して、キリストで答えを出しましょう。2つ目、絶えず編集すれば、答えはみことばから出ます。すると、神様の計画が見えます。それが現場に対する100%です。神様はこの答えを持っているRemnantに肉的な答えもくださいます。3つ目、未来に対する100%を準備します。私がする勉強が福音に有益で伝道に用いられるようになります。そして、237-5千種族とつながります。

300%を準備するのは私たちの力では絶対不可能です。神様から与えられる力を祈りで味わうときに絶対可能になります。Remnantは毎日神様がくださる力を祈りで味わいましょう。

神様、神様がくださる力を持ち、神様とともにいる祈りの中に入るレムナントになりますように。生きておられるイエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン

28 (金)	うば 奪 <sup>う</sup> われたことを回復 <sup>かいふく</sup> しなさい - 文化サミット 300%  創 <sup>はつ</sup> 39章1〜6節、41章38節、45章5節 私 <sup>わたし</sup> をここに売 <sup>う</sup> ったことで、今 <sup>いま</sup> 、心 <sup>こころ</sup> を痛 <sup>いた</sup> めたり自分 <sup>じぶん</sup> を責 <sup>せ</sup> めたりしないでください。神 <sup>かみ</sup> はあなた <sup>あなた</sup> がたより先 <sup>さき</sup> に私 <sup>わたし</sup> をつかわし、いのちを救 <sup>すく</sup> うようにしてくださいました。(45:5)  Remnant は神 <sup>かみさま</sup> 様がくださる力 <sup>ちから</sup> を味 <sup>あじ</sup> わうとき、霊 <sup>れい</sup> 的 <sup>てき</sup> サミット、技 <sup>ぎ</sup> 能 <sup>のう</sup> サミット、文 <sup>ぶん</sup> 化 <sup>か</sup> サミットの道 <sup>みち</sup> を進 <sup>すす</sup> むようになります。Remnant は目 <sup>め</sup> に見 <sup>み</sup> える現 <sup>げん</sup> 実 <sup>じつ</sup> にだまされな <sup>な</sup> いで、サタン <sup>さたん</sup> のしわざを見るようにしましょう。この答 <sup>こた</sup> えの中 <sup>なか</sup> から出 <sup>で</sup> る結 <sup>けつ</sup> 果 <sup>か</sup> がありま <sup>ま</sup> す。  1つ目 <sup>め</sup> 、私 <sup>わたし</sup> のタラントの中 <sup>なか</sup> で、ただを発 <sup>はつ</sup> 見 <sup>けん</sup> すれば専 <sup>せん</sup> 門 <sup>もん</sup> 性 <sup>せい</sup> が出 <sup>で</sup> てくるようになります。Remnant は、ただ福 <sup>ふく</sup> 音 <sup>いん</sup> 、ただ伝 <sup>でん</sup> 道 <sup>どう</sup> 、ただ宣 <sup>せん</sup> 教 <sup>きょう</sup> のため <sup>ため</sup> に勉 <sup>べん</sup> 強 <sup>きやう</sup> しまし <sup>し</sup> よう。そのとき、Remnant の学 <sup>がく</sup> 業 <sup>ぎやう</sup> が、ただにな <sup>な</sup> ります。こ <sup>こ</sup> でプ <sup>つ</sup> ラ <sup>つ</sup> ッ <sup>つ</sup> ト <sup>つ</sup> フ <sup>フ</sup> ォ <sup>お</sup> ー <sup>お</sup> ム <sup>む</sup> が作 <sup>つく</sup> られま <sup>ま</sup> す。2つ目 <sup>め</sup> 、唯 <sup>ゆい</sup> 一 <sup>いつ</sup> 性 <sup>せい</sup> の基 <sup>き</sup> 準 <sup>じゆん</sup> は現 <sup>げん</sup> 場 <sup>ば</sup> です。Remnant が唯 <sup>ゆい</sup> 一 <sup>いつ</sup> 性 <sup>せい</sup> を味 <sup>あじ</sup> わえ <sup>え</sup> ば、まわりの人 <sup>ひと</sup> 々 <sup>びと</sup> が見 <sup>み</sup> て神 <sup>かみさま</sup> 様 <sup>し</sup> を知 <sup>し</sup> るようにな <sup>な</sup> ります。また、事 <sup>じ</sup> 件 <sup>けん</sup> の中 <sup>なか</sup> で神 <sup>かみさま</sup> の国 <sup>くに</sup> のこ <sup>こ</sup> が成 <sup>な</sup> り立 <sup>た</sup> ちま <sup>ま</sup> す。これ <sup>これ</sup> が見 <sup>み</sup> 張 <sup>は</sup> り台 <sup>だい</sup> です。3つ目 <sup>め</sup> 、再 <sup>さい</sup> 創 <sup>そう</sup> 造 <sup>ぞう</sup> は挑 <sup>ちやう</sup> 戦 <sup>せん</sup> であり、未 <sup>み</sup> 来 <sup>らい</sup> シス <sup>し</sup> テ <sup>て</sup> ム <sup>む</sup> です。Remnant が行 <sup>い</sup> く道 <sup>みち</sup> に未 <sup>み</sup> 来 <sup>らい</sup> シス <sup>し</sup> テ <sup>て</sup> ム <sup>む</sup> が見 <sup>み</sup> えれば挑 <sup>ちやう</sup> 戦 <sup>せん</sup> すべ <sup>よ</sup> うな <sup>な</sup> のです。すると、癒 <sup>い</sup> やし <sup>お</sup> が起 <sup>お</sup> こり、再 <sup>さい</sup> 生 <sup>せい</sup> 産 <sup>さん</sup> にな <sup>な</sup> ります。これ <sup>これ</sup> が神 <sup>かみさま</sup> 様 <sup>し</sup> と通 <sup>つう</sup> じ <sup>じ</sup> るアン <sup>あん</sup> テ <sup>て</sup> ナ <sup>な</sup> です。  Remnant 7人 <sup>にん</sup> は戦 <sup>たたか</sup> わ <sup>か</sup> ず <sup>か</sup> に勝 <sup>ぶん</sup> ちま <sup>か</sup> した。文 <sup>ぶん</sup> 化 <sup>か</sup> サミット 300%の答 <sup>こた</sup> えを受 <sup>う</sup> けたので <sup>ので</sup> す。ただ、唯 <sup>ゆい</sup> 一 <sup>いつ</sup> 性 <sup>せい</sup> 、再 <sup>さい</sup> 創 <sup>そう</sup> 造 <sup>ぞう</sup> の答 <sup>こた</sup> えを味 <sup>あじ</sup> わう Remnant 一 <sup>ひとり</sup> 人 <sup>ひと</sup> を通 <sup>とお</sup> して現 <sup>げん</sup> 場 <sup>ば</sup> が生 <sup>い</sup> かされ <sup>る</sup> 最 <sup>さい</sup> 高 <sup>こう</sup> の祝 <sup>しゅく</sup> 福 <sup>ふく</sup> を受 <sup>う</sup> けるで <sup>し</sup> よう。
	かみさま わたし じだい い よ ぶんか かんしや 神 <sup>かみ</sup> 様 <sup>さま</sup> 、私 <sup>わたし</sup> を時 <sup>じ</sup> 代 <sup>だい</sup> を生 <sup>い</sup> かすレムナントとして呼 <sup>よ</sup> んでくだ <sup>くだ</sup> さ <sup>さ</sup> ったことを感 <sup>かん</sup> 謝 <sup>しや</sup> しま <sup>ま</sup> す。霊 <sup>れい</sup> 的 <sup>てき</sup> サミット、技 <sup>ぎ</sup> 能 <sup>のう</sup> サミット、文 <sup>ぶん</sup> 化 <sup>か</sup> サミットの答 <sup>こた</sup> えを受 <sup>う</sup> けるレムナントにな <sup>な</sup> りますように。生 <sup>い</sup> きておられるイエス・キリストの御 <sup>み</sup> 名 <sup>な</sup> によ <sup>よ</sup> って祈 <sup>いの</sup> りしま <sup>ま</sup> す。アーメン

29 (土)	ぜったいふかのう ぜったいかのう 絶 <sup>ぜ</sup> 対 <sup>たい</sup> 不 <sup>ふ</sup> 可 <sup>か</sup> 能 <sup>のう</sup> - 絶 <sup>ぜ</sup> 対 <sup>たい</sup> 可 <sup>か</sup> 能 <sup>のう</sup>  出 <sup>で</sup> 2章1〜10節 しかし、それ以上 <sup>いじょう</sup> 隠 <sup>かく</sup> しきれなくなり、その子 <sup>こ</sup> のため <sup>ため</sup> にパピルス <sup>パピルス</sup> のかご <sup>かご</sup> を取 <sup>と</sup> り、それ <sup>それ</sup> に瀝 <sup>れき</sup> 青 <sup>せい</sup> と樹 <sup>じゆ</sup> 脂 <sup>し</sup> を塗 <sup>ぬ</sup> って、その子 <sup>こ</sup> を中 <sup>なか</sup> に入れ <sup>い</sup> 、ナイル川 <sup>かわ</sup> の岸 <sup>きし</sup> の葦 <sup>あし</sup> の茂 <sup>しげ</sup> みの中 <sup>なか</sup> に置 <sup>お</sup> いた。(3)  ふくいん 福音 <sup>き</sup> が消 <sup>き</sup> えて、イスラエル <sup>いすらい</sup> の民 <sup>たみ</sup> は大きな危 <sup>き</sup> 機 <sup>き</sup> に直 <sup>ちよく</sup> 面 <sup>めん</sup> するようにな <sup>な</sup> りました。エジ <sup>え</sup> プト <sup>じ</sup> の奴 <sup>ど</sup> 隸 <sup>れい</sup> にな <sup>な</sup> っただけでな <sup>な</sup> く、イスラエル <sup>いすらい</sup> の男 <sup>おとこ</sup> の子 <sup>こ</sup> は全 <sup>ぜん</sup> 部 <sup>ぶ</sup> 殺 <sup>ころ</sup> せという恐 <sup>おそ</sup> ろ <sup>ろ</sup> しい法 <sup>ほう</sup> 律 <sup>りつ</sup> が決 <sup>き</sup> まりま <sup>ま</sup> した。こ <sup>こ</sup> のよ <sup>よ</sup> うな絶 <sup>ぜ</sup> 対 <sup>たい</sup> 不 <sup>ふ</sup> 可 <sup>か</sup> 能 <sup>のう</sup> な状 <sup>じやう</sup> 況 <sup>きやう</sup> の中 <sup>なか</sup> で、ヨケベデ <sup>よけべで</sup> がモー <sup>も</sup> ー <sup>も</sup> セ <sup>せ</sup> に伝 <sup>つた</sup> えたレビ <sup>れび</sup> 人 <sup>ひと</sup> の祝 <sup>しゅく</sup> 福 <sup>ふく</sup> は何 <sup>なん</sup> だっ <sup>た</sup> た <sup>た</sup> の <sup>の</sup> で <sup>で</sup> し <sup>し</sup> よう <sup>やう</sup> か。  1つ目 <sup>め</sup> 、暗 <sup>くら</sup> 闇 <sup>やみ</sup> を倒 <sup>たお</sup> す福 <sup>ふく</sup> 音 <sup>いん</sup> の創 <sup>そう</sup> 造 <sup>ぞう</sup> の光 <sup>ひかり</sup> を刻 <sup>こく</sup> 印 <sup>いん</sup> させま <sup>ま</sup> した。キリス <sup>ち</sup> ト <sup>けい</sup> の血 <sup>けつ</sup> の契 <sup>けい</sup> 約 <sup>やく</sup> によ <sup>よ</sup> ってだ <sup>だ</sup> けエジ <sup>え</sup> プト <sup>じ</sup> の奴 <sup>ど</sup> 隸 <sup>れい</sup> から解 <sup>かい</sup> 放 <sup>ほう</sup> され、エジ <sup>え</sup> プト <sup>じ</sup> の10のわざわいを打 <sup>う</sup> ち倒 <sup>たお</sup> すこ <sup>こ</sup> がで <sup>で</sup> きま <sup>ま</sup> す。これ <sup>これ</sup> を悟 <sup>さと</sup> った人 <sup>ひと</sup> 々 <sup>びと</sup> を通 <sup>とお</sup> してエジ <sup>え</sup> プトに勝 <sup>か</sup> ってカ <sup>か</sup> ナ <sup>か</sup> ン <sup>か</sup> に入 <sup>はい</sup> りま <sup>ま</sup> した。2つ目 <sup>め</sup> 、御 <sup>み</sup> 座 <sup>ざ</sup> の力 <sup>ちから</sup> であるみこ <sup>み</sup> とばと祈 <sup>いの</sup> りの力 <sup>ちから</sup> を植 <sup>う</sup> えま <sup>ま</sup> した。こ <sup>こ</sup> の力 <sup>ちから</sup> を持 <sup>も</sup> っ <sup>も</sup> てい <sup>い</sup> る Remnant は、前 <sup>まえ</sup> を主 <sup>しゅ</sup> の使 <sup>つか</sup> いが導 <sup>みちび</sup> き、後 <sup>あと</sup> から守 <sup>まも</sup> っ <sup>も</sup> てくれま <sup>ま</sup> す。Remnant はこ <sup>こ</sup> の事 <sup>じ</sup> 実 <sup>じつ</sup> を信 <sup>しん</sup> じるだ <sup>だ</sup> けで良 <sup>よ</sup> いので <sup>ので</sup> す。3つ目 <sup>め</sup> 、全 <sup>ぜん</sup> 世 <sup>せ</sup> 界 <sup>かい</sup> の暗 <sup>くら</sup> 闇 <sup>やみ</sup> の伝 <sup>でん</sup> 染 <sup>せん</sup> 病 <sup>びやう</sup> を止 <sup>と</sup> め <sup>め</sup> る時 <sup>じ</sup> 代 <sup>だい</sup> の使 <sup>し</sup> 命 <sup>めい</sup> を植 <sup>う</sup> えま <sup>ま</sup> した。王 <sup>おう</sup> 宮 <sup>きゆう</sup> 40年 <sup>ねん</sup> は知 <sup>ち</sup> 識 <sup>しき</sup> を積 <sup>つ</sup> んでエジ <sup>え</sup> プトにつ <sup>つ</sup> いて学 <sup>まな</sup> ぶ時 <sup>じ</sup> 間 <sup>かん</sup> で <sup>で</sup> した。ミデ <sup>み</sup> イ <sup>い</sup> ア <sup>あ</sup> ン <sup>ん</sup> 40年 <sup>ねん</sup> は神 <sup>かみ</sup> 様 <sup>さま</sup> のみこ <sup>み</sup> とばを回 <sup>かい</sup> 復 <sup>ふく</sup> して準 <sup>じゆん</sup> 備 <sup>び</sup> する時 <sup>じ</sup> 間 <sup>かん</sup> で <sup>で</sup> した。荒 <sup>あら</sup> 野 <sup>の</sup> 40年 <sup>ねん</sup> は杖 <sup>つえ</sup> 一 <sup>いつ</sup> 本 <sup>ぽん</sup> で神 <sup>かみ</sup> 様 <sup>さま</sup> の力 <sup>ちから</sup> を体 <sup>たい</sup> 験 <sup>けん</sup> してイスラエル <sup>いすらい</sup> の民 <sup>たみ</sup> を導 <sup>みちび</sup> きま <sup>ま</sup> した。  Remnant は暗 <sup>くら</sup> 闇 <sup>やみ</sup> から完 <sup>かん</sup> 全 <sup>ぜん</sup> に解 <sup>かい</sup> 放 <sup>ほう</sup> させ <sup>る</sup> キリス <sup>ち</sup> ト <sup>けい</sup> の契 <sup>けい</sup> 約 <sup>やく</sup> を握 <sup>にぎ</sup> っ <sup>ぎ</sup> て祈 <sup>いの</sup> る時 <sup>じ</sup> 間 <sup>かん</sup> を持 <sup>も</sup> ちま <sup>ま</sup> し <sup>し</sup> よう。
	かみさま ぜったいふかのう なか ぜったいかのう けいやく にぎ い 神 <sup>かみ</sup> 様 <sup>さま</sup> 、絶 <sup>ぜ</sup> 対 <sup>たい</sup> 不 <sup>ふ</sup> 可 <sup>か</sup> 能 <sup>のう</sup> の中 <sup>なか</sup> で絶 <sup>ぜ</sup> 対 <sup>たい</sup> 可 <sup>か</sup> 能 <sup>のう</sup> なキリス <sup>ち</sup> ト <sup>けい</sup> の契 <sup>けい</sup> 約 <sup>やく</sup> を握 <sup>にぎ</sup> りますように。生 <sup>い</sup> きてお <sup>お</sup> られ <sup>る</sup> イエス・キリス <sup>ち</sup> ト <sup>けい</sup> の御 <sup>み</sup> 名 <sup>な</sup> によ <sup>よ</sup> って祈 <sup>いの</sup> りしま <sup>ま</sup> す。アーメン